

児童デイサービス月のひかり

放課後等デイサービス評価表等集計結果の公表について

放課後等デイサービスガイドラインに基づき、「児童デイサービス月のひかり」において「事業者向け自己評価表」並びに「保護者等向け評価表」による評価を実施いたしましたのでその集計結果について公表いたします。評価結果を踏まえて、事業所全体で改善点を話し合い現在も検討を継続しているところです。

また、今年も月のひかりとして独自にアンケートを行いました。進路や地域サービスについて、今後の勉強会等で取り上げるテーマなどたくさんのご意見を頂きました。これについての回答や対応は、利用者の方々へ直接文書で回答し、HP上でもお伝えしていきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

令和7年2月

児童デイサービス月のひかり

所長 村上実

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス月のひかり		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55名	(回答者数) 52名
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	行動障害への理解とアプローチ支援	様々な障害特性の理解のための研修と、行動障害を呈している児童への丁寧な支援を行っています。 不適行動を呈している児童へは、必要に応じてマンツーマン対応をして集団生活への適応とそのための環境設定を行っています。	強度行動障がい支援者養成研修の履修者は支援スタッフ9割になります。そのうち実践研修履修者は7割を超えています。フォローアップ研修も受講しながら行動障害児の支援向上に努めています。
2	学校休業日等の体験型プログラムの強化と意思決定支援	そのお子さんにとってどのような体験が必要か、年齢、特性、生活環境、家庭状況等を考慮し活動内容をチームで検討しています。また将来の意思決定に繋がる大切な経験と考え支援しています。	現在学校休業日に限定しているプログラムを平日のプログラムにも反映させていきたいと思っています。
3	関係機関連携への積極的な取り組み	今まで参加対象者が限定されていた学校卒業時の移行会議に、放課後等デイとして参加できるようになりました。その他必要な時期に必要な情報共有を目的としたケア会議を学校や関係機関と開催しています。 要保護児童対策地域協議会への参加も増えていて、要請があれば積極的に参加しています。	事業者間連携も自立支援協議会の声掛けで、「事業者の会」が発足しました。事業者間で横の連携も大切にしていきたいと考えています。
4	丁寧な家族支援 法人内の他の事業所の情報提供	保護者の方の就業支援のため延長支援を柔軟に提供しています。併設の短期入所事業と併せて家族の介護負担の軽減に繋がるよう支援しています。 将来の進路や地域生活を想定して、法人内の大人の事業所の様子や社会制度等の情報提供を勉強会として定期に開催しています。	法人内の生活介護・グループホーム等の利用状況や費用の話を見学の機会も設けながら実施しています。 今年度は「成年後見制度」について仕組みや活用方法などをお伝えしてきました。今後も継続して有益な情報をお伝えしていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画の提示の遅れ	60名近い利用児童の支援計画が定期的にモニタリングや家族面談が遅れる事があります。	スケジュール管理とプラン会議の計画的な開催を実施していきます。 就業されている保護者様との面談提示もできるだけ都合に合わせて早期に実施していきます。
2	地域に開かれた事業運営	直接地域の方を招待するような行事の企画は現在ありません。施設自体に来ていただくことが開かれた施設とはならないと考えています。	月のひかりが考えるインクルーシブは、普通に日常的に地域社会資源を利用活用する中で、地域の方々と出会い自然に相互理解ができる機会を大切に実践しています。
3			

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童デイサービス月のひかり	公表日 令和 7年 2月 18日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	障害特性に応じた活動内容や環境設定を工夫しながら提供しています。	環境に対し過敏な児童への配慮が十分でない場合があります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	83%	17%	行動障害の軽減に繋がる支援を行い、個別対応の継続の見直しを適宜に行っています。	行動障害等マンツーマン対応の児童が増えているため、人員が不足している日もあります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	83%	17%	一般家庭に近い雰囲気と構造のため児童が安心して過ごしています。	二階建でありバリアフリー化にはなっていません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	92%	8%		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	92%	8%	できるだけ部屋の使用について児童の希望や意思に沿うようにしています。	部屋数等に制限があるので、希望に沿えない場合があります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	92%	8%	日々行う振り返りなどで、課題を確認し優先順位をつけ検討するようにしています。	同じ課題が繰り返される事があるので、リフレーミングを行い何が課題なのか再検証していきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	評価の機会の他、面談や勉強会、ご意見アンケート等で広くご意見を聞く機会を作っています。	利用日が少ないご家庭など十分にコミュニケーションは取れていないと感じているので、できるだけコミュニケーションをとっていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	日々の打合せ振り返り会議等を通して意見表明の機会を作っています。また毎月業務日誌をととして個人の意見を集約しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	92%	8%	苦情解決の第三者委員へ保護者さんからの評価結果やアンケート、苦情等を報告しご意見を頂いています。	第三者委員の外部評価は未実施です。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	外部、内部含め研修体制は充実しています。法人内研修では職員の階層別の研修体系もあります。	研修受講回数が多いですが、現場へのフィードバックが十分でない事があるので改善していきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	83%	17%	今年度3月までには公表予定です。	適切かどうか試行錯誤している状況です。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	92%	8%	できるだけ最新のアセスメントに更新し、モニタリングも適宜に実施していきます。	モニタリング、再アセスメントが遅れる事があるので、適宜に作成提示できるようにしていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	職員全員でプラン会議を実施し共通理解の上プラン作成を行っています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	83%	17%		利用頻度の少ないおこさんの計画について見直しも遅れる事があるので、適宜に提示できるようにしていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	92%	8%	実施していますがより効果的な評価ができるよう現在新アセスメントの検討中です。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	家族支援は以前から様々な形で実施してきましたが、今回もアンケートでの要望などを受け個別に具体的に支援していきます。	移行支援及び地域支援連携について、利用児童全員の計画に反映できているか不安があります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	チームで実施しています。今まで蓄積していた活動内容を計画的に実施してきました。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	毎回振り返り反省もを行い、それを踏まえたプログラムにしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	重度のお子さんで個別活動が中心でも、計画では集団活動や集団生活の参加を促す内容となる様子を付けています。	個別活動が必要だと思われるお子さんへの十分な対応ができていません。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	必ずその日の勤務者全員で実施しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	必ずその日の勤務者全員で実施しています。また、その日の事故やヒヤリなどの確認もしています。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	記録の大切さを確認し、記録についての研修も実施しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	92%	8%	モニタリングの際に、学校やご家庭など関係機関からの情報を得るようにしています。	モニタリングが遅れるケースもあります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	100%	0%	全ての活動は、お子さんの意思意向を確認して実施する様にしています。	地域交流に関しては現在施設が主催する交流の機会はありません。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	お子さんの状況に応じて、活動など選択できる場合には自己選択ができるように工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	難しい場合は事前に情報を集約して他の職員が対応できるようにしています。必要に応じて紙面でも配布しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	92%	8%	整えています。必要であればこちらから相談を通じて連携会議の開催を求めています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	きめ細かに実施しています。	学校によっては情報が得られない場合があります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	75%	25%	相談事業所経由で情報を得るようにしています。	家族からの情報提供のみで、直接は実施していません。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	実施しています。積極的に参加し情報を提供しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	17%	83%	1月から児発センター主催の研修会に参加しています。	児発センターからの働きかけがありません。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	67%	33%	山形市南部児童遊戯施設コパルを利用して地域のこどもや親御さんとの交流があります。	放課後クラブや児童館との交流はありません。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	積極的に参加しています。研修会や情報交換会等へは参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	様々な機会を通じてご家庭との情報共有を図っています。	親御さんの就業等の状況で、話し合う機会が少ない場合があります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	面談等でご家族の支援方法の課題をお聞きし、一緒に考えていく関係を大切にしています。研修会の開催を定期的に行っている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	今年度の改正にあたり、分かりやすく改正点を書面で配布しました。プログラムについて事前にアンケートをとることも行いました。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	行っています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	92%	8%		提示が遅れる場合があります。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	83%	17%	近々、勉強会等でグループワーク的な話し合いを企画予定です。	保護者同士の意見交換の要望が多く出されています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	丁寧に説明し対応しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	事業所からお便りを月ごとにお渡ししています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	必要に応じて、同意の確認を行っています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	視覚的な構造化を含め必要なお子さんには提供しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	67%	33%	放デイとして取り組みが難しく感じています。逆に事業所から地域の社会資源を活用しています。	行っていません。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	策定済です。	訓練は未実施の部分があります。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	83%	17%	策定済です。	訓練は未実施の部分があります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	把握しています。情報は常に最新の情報にするように確認していきます。	発作の変化や対応方法、処変など最新の情報への更新ができていないケースがあります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	家族からアレルギーの状況をお聞きしながら必要な配慮を行っています。	指示書に基づいては行っていません。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を策定済です。常に危険な箇所がないか点検も適時に行っています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	ご家庭で掲示していただくために安全計画の概要版を作成し全員へ配布しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	毎月1回、前月のヒヤリハット事故等を法人全体で共有し原因を考え再発防止に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	毎回テーマを決め、支援の中で権利侵害につながる点はないか、意見交換しながら確認しています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束前に至らない支援力を常に考えていきます。	対象事案がまだありません。

事業所名		児童デイサービス月のひかり		公表日		令和7年2月18日		※項目で無回答あり100%に満たない場合あり		
				利用児童数		55		回収数		
								52		
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いい え	わから ない	ご意見		ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	88%	6%		6%	・ 普段の活動を全て見ていないので。 ・ いつか見学させていただけた		・ まだご覧いただけていない方へ是非ご案内させていただきます。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	79%	8%		11%				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	83%	10%		7%	・ 普段中を見る機会がないのでわからない。		・ 玄関の段差、二階の階段等完全バリアフリーになっていませんが、個室を活かしながら環境構造化を図っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	87%	3%		10%				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	87%	8%		5%	・ 普段の活動を全て見ていないので。その日の活動の説明はしっかり受けている。専門性まではわからない。		・ 専門職の配置までは至っていませんが、強度行動障害養成研修修了者は90%を超えています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	88%	2%		10%				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	88%	8%	3%		・ 個別支援計画書がもらえない。		・ 一部更新プランの提示が遅れているケースがあります。今後は遅れないように提示してまいります。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	87%	8%	2%	3%			・ 「移行支援」は保護者の方はイメージしづらいと思います。インクルーシブの意味や放課後クラブ等への移行など、なぜ必要なのかも含め説明させていただきます。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	84%	8%		8%				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	81%	11%		8%			・ 長期休みなどのプログラムは充実させましたが、今後は通常のプログラムにも波及させていきたいと思っています。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	37%	13%	13%	37%			・ 地域の子どもと交流の必要性は感じない意見が多いですが、月のひかりは活動の中での出会いを大切にしています。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	92%	6%	2%					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	84%	8%	3%	3%			・ 支援計画の精度を上げるためにも、ご家庭の様子を詳しくお聞きすることがあります。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	90%	3%	3%	2%			・ 保護者向けの勉強会や情報提供を定期的に開催しています。希望をお聞きしながら充実させていきます。	

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	88%	8%	2%	2%		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	67%	19%	12%	2%	・学校の情報共有会に参加していただきありがたい。 ・面談をもっと増やしてほしい。	・個別面談を遅れないように定期に開催していきます
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	92%	8%				・お子さんやご家族の意向をお聞きしながらより良い関係性を築いていきたいと思えます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	48%	19%	10%	23%	・保護者会の活動には興味があるものの、回数が頻回となると参加が難しい。 ・保護者同士の交流が無いので淋しい。いろいろな情報がほしい。	・年2回保護者向け勉強会を開催してきましたが、先輩の親御さんとの交流等の希望が多いので今後開催していきたいと思えます。きょうだい向けの企画はまだ開催できていません。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	81%	10%	2%	6%		・家族支援は大変重要な役割だと考えています。家族の安心安定があってお子さんの成長があると考えます。どんな事でも気軽に相談して頂きたいです。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	87%	8%	2%	3%	・面談が少なく心配です。	・保護者様の就業状況に配慮して遅れている状況があります。今後は遅れる事のないように実施します。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	87%	6%		8%		・毎月お便りや、ホームページで活動の様子などお知らせしております。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	77%	3%		20%		・個人配布物の渡し間違いがありました。十分配慮していきたいと思えます。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	67%	13%		17%		・月のひかり安心安全のためのマニュアルを作成し配布しておりますが、再度周知してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	56%	10%	2%	30%		・火災避難訓練を行っています。自然災害に対する訓練も今後計画的に進めていきます。お便り等でお知らせします。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	81%	12%		8%	・帰りの事業所送迎時、車両に児童を乗せたままで職員が離れる場面があったので不安に感じた。	・帰りの車両内外把握に必ず職員を配置するようにしていましたが、ご指摘の場面について、検証し更に安全第一で把握体制の見直しを行います。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	73%	15%		12%		・安心安全マニュアルでの対応となります。必ずご家族への連絡が基本となります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	98%			2%		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	98%			2%	・とても楽しみにしている	・すべてのお子さんに楽しんで通ってもらえるように、サービスの向上に努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	90%	8%	2%		・いつも子どもたちが楽しいと思える企画をしていただきありがたい。 ・もっと色々な所に連れて行ってほしい。	・就学期の経験はとても大切だと考えています。お子さんの性格や特性に考慮したプログラムを数多く提供していきたいと考えています。

令和6年度 月のひかり保護者アンケート

- 現在、生活全般（学校含む）で不安な面はありますか。
 - ・発達の課題（身の自立、言葉、コミュニケーション）
 - ・思春期の課題（性への興味等）
 - ・加害、他害行為 3件
 - ・休日の過ごし方
 - ・過敏なので環境設定に悩んでいる
 - ・執着行為が強く親が身動き取れない
 - ・漠然とした将来の不安
 - ・生活介護等事業所を利用すると終了時間が早まるので仕事を辞める必要がある
 - ・不安定な時期の対応
 - ・進学に当たっての学校の環境
 - ・卒業後子どもに合った事業所が見つかるか
 - ・公共交通機関を使っての移動ができるようになってほしい

- 現在、地域のサービス資源についてこんなサービスがあればいいと思っている事がありますか。
 - ・簡易的、一時的に預けられるサービス 3件
 - ・ショートステイが出来る事業所が増えてほしい 6件
 - ・子どものGPSなどの機器を付ける
 - ・余暇支援 3件
 - ・祝日に使えるサービス 2件
 - ・保護者の就労に合わせた支援、朝の登校支援等が必要 3件
 - ・行動援護や移動支援のサービスを増やしてほしい 4件
 - ・こども食堂
 - ・障がい児の病児保育的なサービス
 - ・障がい児も利用できるスポーツジムがほしい

- お子さんの将来像を、現時点でどのようにお考えですか。（生活介護、就労系、入所、グループホームなど）そう考える理由はなんですか。
 - ・就労系事業に行ってほしい 7件
 - ・生活介護で自分の好きな事を見つけてほしい 11件
 - ・グループホームの利用 6件
 - ・少人数でのグループホーム利用

- ・就労してほしい 6件
- ・障がい重いので入所を考えている 5件
- ・親なき後はグループホームか入所 安心して過ごせる場所
- ・グループホームで生活をしながらの就労型への通所
- ・就労B型事業所 4件
- ・障がいのない人たちと共存できる環境で生活してほしい
- ・自立させたいけど、手許におきたい気持ち
- ・職員が明るいので子どもも楽しんで通っている
- ・家庭以外にも社会や地域との繋がりを持つ場所 2件

●職員の支援について、感じている事があれば具体的にお聞かせください。

- ・いつも相談に乗ってくれて感謝している
- ・子どものペースに合わせてくれて良いです
- ・通所するのを楽しみにしている
- ・子どもとの信頼関係があり安心している
- ・臨機応変に対応してくれてありがたい
- ・何をしたかの報告に加えて、どのような表情でどんな反応であったかを聞きたい
- ・自傷行為などできるだけ見守り防いでほしい
- ・現場実習中の送迎をしてほしい

●今後、月のひかりの勉強会等で取り上げてほしいテーマや内容があればお聞かせください。

- ・進路について 3件
- ・入所、グループホームについて詳しく知りたい 3件
- ・就労事業所の見学 3件
- ・進路先の選び方 3件
- ・障害年金について 2件
- ・思春期について（性について）
- ・先輩ママとの交流会（お茶会の雰囲気） 5件
- ・成年後見制度 2件
- ・子どもとの関わり方
- ・地域の社会資源や制度等の情報提供（グループホーム、就労） 3件

児童デイサービス月のひかり

放課後等デイサービス支援プログラムの公表について

令和6年度報酬改定において、総合的な支援の推進と事業所の支援の見える化を図るため支援プログラムを作成し公表することが求められました。

月のひかりとしても、今までの支援の取り組みをベースに今後求められる領域や支援の方向性を明確化するために「支援プログラム」を公表させていただきます。参考にさせていただければ幸いです。

今後もお子様の状況や支援方針等で内容は変更する場合もあると思いますがその都度公表させていただきます。

令和7年2月

児童デイサービス月のひかり

所長 村上実

事業所名 児童デイサービス月のひかり 支援プログラム 作成日 6年 12月 10日

法人(事業所)理念		人権の尊重・受容と共感・自立支援を柱に、障がいのある利用者の意思決定が尊重される地域共生社会の実現						
支援方針		①意思決定支援 ・経験を積む事での意思形成支援 ②総合的な支援の推進 ・適切なアセスメントの実施 ・発達支援の質の向上、5領域の計画的支援の提供 ③インクルージョンの推進(地域貢献) ・一般の児童施設等との連携と、障がい理解のための日常の活動の充実 ④家族支援の充実・要支援保護児童への支援の充実 ・児童の生活基盤である家族支援の提供と、社会的養護が必要な児童の積極的な受入						
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり	なし
支援内容								
本人支援	健康・生活	○健康な体づくりのために適切な運動量を、外活動や遊戯施設等の活動を通じて確保し心身の成長をサポートします。 ○障がい特性に応じた時間と空間の提供を行います。個人の日課等のスケジュールを提示し見通しが持てる生活リズムを提供していきます。 ○基本的な生活スキルや児童の段階に応じたIADLの獲得を、併設した短期入所事業の機能も活かしながら目指します。 ○障がい特性に配慮しながら生活領域を広げるための支援を行います。苦手と思われる活動や空間も、配慮をしつつチャレンジできる機会の提供や支援を行います。						
	運動・感覚	○本来就学期に必要な運動量の確保をしていきます。身体機能を活かす機会が少ない事を前提に(部活動がない、体育の時間の制限等)本来この時期に必要な運動を日課を通じて提供していきます。 ○学校と事業所間の移動に関して対象学校は限定ですが自力での移動を支援していきます。 ○公園遊び、コパル遊戯施設、向陽園体育館での遊具や器具を活用し保有する感覚が活用できるよう支援していきます。 ○感覚過敏の児童には必要であれば個室パーティション等の提供をしながら個別に対応していきます。						
	認知・行動	○日課スケジュールの提示で日課の流れの理解を促進します。 ○活動内容が選択が可能な場合は視覚的ツールを用い、自己選択、自己決定の支援を行います。その結果は、自身の意思の結果として認知し次回の選択の機会に意思決定の経験となる様に支援していきます。 ○様々な活動プログラムを通じての体験が自身が今後判断していくための情報や判断材料となる様に計画していきます。 ○強度行動障害児への支援について、その要因を検証し適切な行動への対応支援を行います。また、予防のための支援を大切にしていきます。 ○自立課題プログラム教材等を使用し認知機能の発達を促していきます。						
	言語コミュニケーション	○個々の特性に対応するコミュニケーション手段(指差し、サイン、写真絵カード)を選定し安心して意思の伝達ができるように支援していきます。 ○様々な活動プログラムを通じて、具体的な事象や体験と言葉や文字の意味を結び付ける事により、体系的な言語の習得や事象の認知を促す支援をしていきます。 ○児童が伝えたい事を表現し、安心して意思を表出できるような環境と関係性を構築していきます。相手に意思が伝わった経験を評価し自信が持てるように支援していきます。						
	人間関係社会性	○放課後デイサービスの目標にある、「学校や家庭とは異なる時間、空間、人、多様な遊びや体験活動等の機会の提供」を実践していきます。特に色々な学年の児童と関わることで多様な関係性の理解を促進します。また、事業所内で完結するのではなく、広く社会資源を活用し直接社会との接点を増やしていきます。 ○遊びや集団活動の中でルールや約束事を守ることの大切さを伝え、自身の言動が周囲の人にも与える影響などを考えていく支援をします。 ○苦手な活動でも参加することで新たな価値観や自信につながる可能性を信じて最初から諦める支援はしません。 ○長期休み期間の宿泊体験学習や、卒業後の進路先(生活介護、就労系)体験する機会を提供し社会性を身に付ける支援をします。						
家族支援	移行支援	○卒業後の生活のための情報提供や制度の勉強会の開催、個別相談の実施など、安心して地域生活が送れるような支援を実施していきます。 ○保護者の方の就業支援として延長支援も柔軟に提供します。併設の短期入所事業と併せて家族の負担軽減に繋がるような支援を提供していきます。					○適切な進路選択ができるように支援をしていきます。 ○ライフステージの変化に対応できるよう、進路先の学校や事業所へ本人の支援ポイントをお伝えするサポートを行います。 ○本来のインクルージョンは、普通に日常的に地域社会資源を活用する中で、地域の方々との出会い自然に相互理解ができる機会をつくっていきます。	
地域支援・地域連携	職員の質の向上	○教育と福祉の連携の重要性を認識し、所属する学校の先生方と連携を取り、指導及び支援が同じ方向性になるように努めています。 ○要保護・要支援児童に対して、信頼関係を構築しながら家庭的な雰囲気のもと心身ともに健やかに育てていくようなサービスの提供を行います。また、不登校になっている児童へは学校は難しくとも放デイには通い続けるような支援を提供していきます。何れも、関係機関との連携を密にしこどもの最善の利益を保障するように支援していきます。					○強度行動障害養成者研修は9割が受講済です。外部内部研修に積極的に参加しています。 ○権利擁護の推進、法人の倫理要綱、職員行動規範、職員行動規範チェックリストでの点検など整備し、権利擁護についての意識向上を図っています。 ○職員の視野拡大、知見拡大のため法人内の他の事業所との交換交流事業を実施して質の向上に努めています。 ○法人内で10委員会が稼働し日々支援の質の向上に機能しています。	
主な行事等	○社会体験～就労・生活介護事業所体験、工場見学、宿泊体験(夏冬)、選択型外食体験、交通機関利用体験 ○イベント～餅つき、クリスマス、卒業生を祝う会、火花温泉(宿泊体験時)、水族館見学、プラネタリウム見学、動物園見学、県外遠足(松島遊覧船)等々 ○季節活動～プール夏季常設、そり遊び体験(猿倉スキー場) ○個別メニュー～グループ活動が難しい児童への個別行事							